

最後になりますけども、市民憲章も各種宣言に関しましても、もっとやっぱり市民に活用していただいて、市民のものにしていただくためにも、現在スマホ社会といえますか、動画社会にもなっておりますので、額に入れて公共の場所に掲げるだけではなくて、市民の手元に身近にあるというようなことも考えてほしいというふうに思いますが、その辺最後ですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、看板なりポスターという形でやらせていただいておりますが、今、スマホといったご提案もありますので、それも含めながら、時代の変化に合った取組を進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。この分野においても、Society 5.0 社会に対応した在り方をお願いしたいと思います。

以上で終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤 孝です。

通告書に基づいて、1回目の質問をいたします。

1、働き方改革について。

(1) 会計年度任用職員について。

- ① 会計年度任用職員については、現職の臨時職員からの任用と公募も行っているようですが、どのような状況か伺います。
- ② 任用に当たって初任給の格付、昇給について伺います。
- ③ 再度の任用については、どうなっているか伺います。
- ④ 総務省マニュアルには「公務の運営においては、任期の定めのない常勤職員を中心とするという原則を前提とすべき」、こう書かれております。会計年度任用職員制度の施行に当たって、このことが検討されたか伺います。
- ⑤ 平成30年度の12月定例会において、市長は、会計年度任用職員への移行時に、「臨時職員の給与を下げて諸手当で調整するようなことは考えていない」こう答弁しております。

したが、そのことがどこに生かされているか伺います。

- ⑥ 臨時職員の多くを女性が担っております。SDGsの17の目標の中の5番目に「ジェンダー平等を実現しよう」とこう書かれております。日本はジェンダー平等に関して、149か国中110位と後進国であります。これは2018年世界フォーラムの発表であります。糸魚川市では、会計年度任用職員制度移行を機会に臨時職員の待遇改善を行って、女性の暮らしやすさをアピールしたらどうかと思いますがいかがですか。
- ⑦ 昨年12月18日の高市総務大臣予算折衝・地方財政対策関係記者会見によると、大臣は会計年度任用職員制度の施行に伴い、地方団体に対して期末手当等の所要額の調査を行った結果、1,700億円程度の一般財源を確保したという話であります。このことについてどう考えるか伺います。

(2) 民間の非正規・臨時労働について。

市立保育園等については、フルタイムで働く臨時の保育士や幼稚園教諭と保育園調理員が、フルタイムの会計年度任用職員へ移行するようであります。今後の待遇改善を期待するところであります。

ところで、民営保育園の方からは、保育士の確保とその待遇改善に大変な苦勞をしている、こういう声があります。この対策について伺います。

2、持続可能な糸魚川市について。

SDGsは「持続可能な開発目標」と訳されているようですが、私としては、「持続可能な発展目標」と理解しておるところであります。17の目標は全面的に賛成できます。

日本全国でも糸魚川市でも、持続に関して、一番問題となっているのは、人口減少問題、すなわち人間の再生産の行き詰まりだと思いますが、以下伺います。

- (1) 老年人口指数について、日本は農村部では46.34%で、2位のポルトガルに5%以上の大差をつけて世界第1位です。都市部につきましても35.12%でありまして、2位のイタリアに4%以上の大差で世界第1位であります。これは、また世界ランキングなんですけども国際統計格付センターの世界ランキングです。糸魚川市では、この老年人口指数はどのような状態か伺います。
- (2) 男性の年収と既婚率には明らかに関連があることが知られております。低年収が家庭を持ってない原因の1つと思いますが、いかがですか。
- (3) 2000年以降、韓国やイギリスは賃金が上昇しております。日本においては、賃金の上昇は全く見られず、大企業の内部留保が増えるばかりでありました。この20年が、国民・市民の、人間の再生産の行き詰まりを決定的にしたと思えるのですが、いかがですか。
- (4) 十数年前に、学力世界一として有名になったフィンランドでは、国を挙げて子育てに力を入れ、ネウボラという仕組みをつくり、成果を上げてきました。糸魚川市は、こども支援室を設置しましたが、その取組状況について伺います。

以上、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

佐藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、現在働いている皆様に意向調査を行っており、公募と合わせて準備を進めております。

2つ目につきましては、職務の内容に応じて設定いたしており、昇給につきましては、現在、検討いたしております。

3つ目につきましては、毎年、人事評価を行いながら判断することといたしております。

4つ目につきましては、基本は常勤職員の補助的業務を行う職員として、会計年度任用職員を任用してまいります。

5つ目につきましては、令和元年度の給与を下回ることはないよう準備を進めております。

6つ目につきましては、引き続き、働きやすい環境づくりに努めてまいります。

7つ目につきましては、具体的な内容が示されていないことから、情報収集してまいります。

2点目につきましては、国において、技能・経験に応じた賃金アップ制度を創設するなどの処遇改善が図られており、市も連携・協働して保育士の確保に努めてまいります。

2番目の1点目につきましては、2015年国勢調査ベースで、71.28%となっております。

2点目につきましては、個人の価値観など様々な原因があると考えております。

3点目につきましては、市税概要では賃金は上昇しているものと考えております。

4点目につきましては、子育てに関するあらゆる相談の窓口として、関係者で情報共有を行い、支援を必要とする方へのきめ細かな対応を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

(1)の①ですけれども、会計年度任用職員、臨時職員からと公募からと言われましたが、現在のところ臨時職員から何名、公募で何名の予定でありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

臨時職員からは428人、公募につきましては、現在42人を募集しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

事務処理マニュアルによりまして、会計年度任用職員は、その給与は職務遂行上、必要となる知

識、技能及び職務経験等を考慮して定めるべきものと書かれております。再度の任用時に、同じ職種につき場合の昇給は、予定しているのかどうか、そこら辺を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

職務の内容に応じ、設定しております。昇給につきましては、現在検討してる段階でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

再度の任用についてですけれども、自治体によっては回数制限をしてるような自治体もあると聞いておりますが、糸魚川はどのような形をとる予定でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現時点では、回数の決まりはありませんが、毎年、人事評価を行いながら判断するということになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

4月から施行されるわけですが、まだ決まってないところがあるようですので、これは早目に決めていただいて、会計年度任用職員の方々の将来計画もあるでしょうから、そこら辺もよろしくお願ひしたいと思います。

令和2年度当初予算参考資料によりますと、総職員数は1,055人でありまして。そのうち一般職530人、特別職3人、そのほかに会計年度職員が530人、その他14人となっております。会計年度任用職員とその他の職員の比率ですが、全総職員数に占める割合は51.6%となっております。平成30年には、非正規率が前年よりも3.1%増えて40.7%だったはずですが、2年間で50%を超えて、その増加率は毎年5%から6%にもなっております。この原因を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には、例えば今、正規職員が一般事務等やってる仕事を全て置き換えるというような形ではなくて、そういった一般事務につきましては、合併前、合併後、合併直後と現在というのは、ほとんど変わっておりません。そうした中で、新たな行政サービスが生まれていることなどから、例えば教育補助員とか、未満児保育が増えているということで、保育士の採用といったことを進めておりまして、基本的には行政サービスの向上に努める中で、職員を雇用させていただいているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私から見ますと、どうもこの増加の具合を見ますと、やっぱり正職員から臨時職員や会計年度任用職員への置き換えを行っているように見えてしょうがないんですが、そのところは間違いないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

予算参考資料の中にも具体的な会計年度任用職員の数字を出しております。令和元年度に比べて、令和2年度はどうかということでもありますけども、基本的には、先ほど申し上げました、例えば保育士とか教育補助員、そういったところが増えておりますし、また、制度の改革に伴いまして、例えば地域おこし協力隊といったものが、令和元年度はほかの職だったのが、会計年度任用職員になったということでありまして、基本的には行政サービスの向上に向け、行政課題に対応しながら雇用しているという状況では変わっておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

平成30年のときにも、前年度よりも3.1%増えて40%に乗ったという話をしました。今回、さらにその時点から20%以上増えて、実は51.6%になっております。こういう形が続いていくと、今1年間に五、六%増えてますから、来年、再来年と60%、70%になるんじゃないかと、そういう心配がありますが、そこら辺は制限といいますか、そこら辺は考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほどの予算参考資料を見て、増えてるところを見ていくと、全てが今言う教育補助員だったり、

若者サポートセンター指導員といったような新たな業種もあります。ということで、結果的に言いますと、翌々年度がどうかというのは、現段階では何とも言えないということでありまして、いずれにしても行政課題、それから地域課題に対応しながら、職員の雇用を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

教育補助員等の一時的な仕事だということでもあります。特にパートタイム型会計年度職員が多くなっておりますが、これは一般事務職かと思いますが、住民サービスにこのままだと影響するようなことは考えられませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

パートタイム会計年度任用職員の基本的考え方は、常勤職員の補助的業務をやるということでありまして、前線に立っていくのは常勤職員でありますので、サービスの低下にはつながらないよう取組を進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

それでは、平成30年度の12月議会、私は一般質問で臨時職員の給与を、毎月の給与を下げて、それを期末手当に回すような、そういうやり方をする可能性があるのか問いましたところ、市長は、そういう調整は考えてないとおっしゃいましたが、私もそのとき、市長はこの会計年度任用職員制度移行に合わせて、臨時職員の待遇改善もしようと思ってくれたんだなと思ってたんですが、市長、そこら辺はどういう考えだったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には、議員ご指摘の平成30年12月議会の市長答弁に沿って進めてまいっているところであります。考え方は、令和元年度の給与を下回ることなく、年収が増加するよう制度設計を図っているということでありまして。具体的にどこがどう生かされているかということになりますけれども、現在お勤めの方が、来年度そのまま移行したと、全員がそのまま移行した場合、総額で約1,700万円ほど増える計算を今しております。

ということで、今、議員ご指摘の待遇改善、あるいは年収アップという思いはあったけどもどうかということではありますが、確実に今よりよくなるというような制度設計をしておりますので、待遇改善、年収アップにつながっているものというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

12月議会の委員会でも、私、お聞きしましたところ、前年度の収入を下回らないようにするというだけでありまして、これはもう前年度とほぼ同じ金額で、ほんのわずか一時金と言われるほどの収入増は全くないんだと理解しましたが、そこら辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほど申し上げましたように全体額では、約1,700万という金額になってまいります。そういった金額の中で、待遇改善、年収のベースアップというものを取り組ませていただいているところがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

一時金と言うからには、まさかまさか年間で、例えば3,000円とか5,000円とかそういうような金額じゃあないと思いますが、そう理解してよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほどの話にありました職務に応じて金額というのは変わってきますので、多い少ないというものがありますけども、例えば事務補助員、学校管理員、学校調理員等を見ますと、1万円から3万6,000円ぐらいの間で増えてくるということでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

一時金と言えるかどうかわかりませんが、確かに減にならないことは間違いないと思います。

わずか1万円でも年収が増えれば、確かに毎月の給料を減らされて、その分そのまま一時金として払うということではないと思います。私としては、もっとちゃんとやっていただけるのかなと思ったんですが、少し残念であります。

このときも、2年前ですけども、市長の答弁を聞いて、会計年度任用職員制度によって臨時職員の待遇改善がされる。そう思った臨時職員の人も多かったと思うんですけども、少しいろんな服務規程や何かが厳しくなる分だけ、ほんのわずかの一時金、年収増であります。これは臨時職員の人たち口に出さんでも市長が言うんだから、もっと期待した人が多いとは思いますが、そう思いませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

服務規程というお話もありましたけども、服務規程が適応されるということではありますが、現在も守秘義務であったり、職務専念義務などをご遵守いただいておりますので、基本的には大きく変わるというものではありません。

また、先ほど意向調査でありますけども、実際にそれぞれの方が、今幾ら給与をもらって、来年度どうなるかという金額を実際の数字を皆さんにお渡しした上で、今後も継続されるか、継続されないかということをお聞きしております。その中で9割の方が継続したいということで、1割の方は退職ということで。その1割が、じゃあ多いか少ないかということでありますが、毎年ほぼこのぐらいの数の方が、お辞めになっていらっしゃると思いますので、この制度によって新たにお辞めになったという方は、ほとんどいないんじゃないかというように推測しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私、今回の質問するに当たって、ハローワークの糸魚川市役所の募集を確認いたしました。そうしましたところ、保育補助員、時給830円から900円、調理補助員、時給850円から880円、教育補助員、時給830円から920円、この募集の金額を見ますと、応募するのはどうせ女性だろうから、最低賃金でも働いてくれるだろう。こんなような考えが、見てとれるような気がします。これに応募して会計年度任用職員になったとしたら、月収は、最低賃金を下回る人が出るんじゃないかと思いますが、そういう方はおりませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

830円という話でありますけども、求人票をハローワークに出した時点では、時給が決まって

おりませんでした。ということで前年度、今の金額を出させていただいております。今この金額は、変わっております。約数%、何%か上がった金額ということでありまして、基本的には最低賃金を下回ることがないように設定しておりますし、万が一、それより上回る金額でありますけども、万が一、10月1日でしょうか、最低賃金が変わって、それを下回ってるようでしたら、速やかに基準どおり法律にのっとって対応してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

一時金は、わずか1万円から数万円だから、それを半年分集めても最低賃金を下回ることはない程度の金額だと。毎月の賃金、時間当たりになると最低賃金を下回らない程度の金額にはなるという、そういうことでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的に、その職務によって金額というのは異なってきます。中には時給何千円、少ない、金額の高い二千何百円という方もいらっしゃいますので、職務に応じて金額を提示させていただいて、それに対してご応募いただいて、採用させていただいてるという状況なので、いわゆる明確に数字を出させていただいた上で募集させていただいておりますし、法律違反にならないように、当然でありますけども、努めてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

そうしますと途中で6カ月間、一時金もらえる期間に当てはまらなくて、短い期間で辞めたというような方があったとして、それで最低賃金を下回るようなことはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

あらかじめ6カ月未満で雇用するという契約も、実際にはございます。具体的に言うと、例えば今やってます税金のほう、納税の関係とか、あるいは選挙の関係といったことがありますけども、それもこういう金額ですということでお示しさせていただく中で、ご応募いただいているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

その場合にも最低賃金を下回らないということで、理解させてもらってよろしいですね。

私は本当は、実はほかの自治体で加茂市、ちょっと調べてきたんですが、加茂市の募集では、保育士（会計年度任用職員）、報酬月額18万1,161円（期末手当支給あり）、こういうような形でしっかり職安への募集でも書いてあったんです。こういうのを見ると、間違いなく時給、最低賃金を下回らないし、その上に期末手当の支給があるんだなということがわかるんですけども、糸魚川市の場合は、私見たのは、令和元年度だったかもしれませんが、830円からとなっていたものですから、そこから期末手当分を少しずつへつっつといて、期末手当として払うということかなと心配しましたんで、質問させてもらいました。

ところで、昨年12月18日、高市総務大臣が会計年度任用職員への移行とともに待遇改善のための予算を用意したと。それにはまた、地方団体に対してどの程度のお金が必要か、所要額を調査して決めたんだという話が載っておりましたが、そういう期末手当等の所有額の調査、こういうのは、糸魚川市にもありましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嵐口課長課長補佐。〔財政課長補佐 嵐口 守君登壇〕

○財政課長補佐（嵐口 守君）

国の一般財源を確保というお話が出てまいりました。交付税での措置ということになりますが、ただいま国のほうでも2回目の交付税の基礎調査的なものを開始しておりまして、内容についてはわかりませんので、出ましたらまた、探してみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

調査ということでございますが、平成31年の4月5日に新潟県の市町村課長から依頼があり、回答しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

そうしますと、それにはどのような形で応じたものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

回答の内容につきましては、平成30年度が6億6,984万2,000円、それから、令和2年度は7億1,680万円ということで数字を出しております。

ただ、これが平成31年の3月5日ということで、まだ私どもも制度が固まっていない状態ということは、ご理解いただきたいというように思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

これは糸魚川市での所要額でしょうから、これ全国集まったら、とんでもない金額になりますけども、高市総務大臣の1,700億円というのは、それからすると随分わずかな気もしますが、そこら辺どう思われますか。全部集計したものだと思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

多分、期末手当の分になるのかなというような推測はしておりますけども、具体的にどう積み上げたかは分かりませんし、その1,700億円が、実際に糸魚川市にどれだけ入ってくるかということとは分からないという状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

でも、総務大臣が予算を確保したと言ってるわけですから、今年ばかりじゃなくて、今後のこともありますので、実際どれくらいかかるよと。これじゃ足りませんよというような話は、この先できるんじゃないかと思えますし、ぜひともそれをやって、会計年度任用職員の待遇改善につなげていってほしいと思えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今ご指摘の国から幾らくるかという状況、それから新潟県内の他市の状況、それから地域の企業の状況、そういったものを全て見る中で、糸魚川市としてどうすべきかということを決めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私考えますに、市長の言葉というのは非常に重いと思います。わずかでも年収が上がったから、それでいいやというものでなくて、これからやっぱり特に臨時職員、今年は会計年度任用職員ですけれども、女性が多いわけですし、糸魚川市は本当に女性がいなくて、まだ消滅可能都市には入っていないかもしれませんが、そこが一番問題となる、人口問題ではなると思います。これやっぱりぜひとも改善していただきたいと思います。

それで（2）です。民間の非正規・臨時労働についてですが、現在、保育士不足ということが言われておりますが、実は潜在保育士が全国に75万人もいて、年々増加してるとも言われております。糸魚川市では、潜在保育士の調査はされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

議員おっしゃる調査は、市の独自の調査は行っておりません。潜在保育士については、新潟県で保育士サポートセンターという組織が開設されておりまして、潜在保育士の活用を図ったり、また、情報共有を行っているという現状であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私のはインターネットのデータですけれども、潜在保育士が増える、この原因については、何か考えられることはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

潜在保育士の8割以上の方が、保育園や幼稚園で勤めたことがあるという方でありまして、最も多い退職理由は、結婚・出産というふうに一般的に言われております。復職するに当たって、最もその方たちが必要としているということは、急なお休みをいただきたいということや、子育てに応じた勤務形態など、子育てを優先できる環境を求めているということでもありますので、安心して働くことができる環境づくりが必要なのかなというふうには考えておりますが、糸魚川市の在宅の保育士の方には、全てではありませんが、保育園の保育士がお休みを、休暇をとる場合に代替として勤務していただいているという現状もあることをご承知おきいただきたいなというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

考えてみたら、私の周りにも時々出てくる保育士さんがおりました。

この間、能生で民間保育園の理事長及び園長の方と懇談する機会がありました。それによりますと、民間経営の保育園は、利用者に対してきめ細かな対応を心がけている分、保育士の負担が大きくなる。待遇も市営保育園のようにはなかなかいかない。民営保育園は、過疎の進む地域に多く、経営も不安定になりがちで園児の減少も激しく、保育士さんにとっても不安定職場となる可能性が高い。こういった状況では、保育士さんの確保、確保競走に対しても公立保育園とまともに張り合えるわけがないと、そういう糸魚川市に対しての支援増を求める声が多く出ておりました。この現状を調査して、対策をとってほしいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

国も民間保育園、民営の保育園につきましては、国の制度として処遇改善を行っているところがあります。また、市としても理事長や園長などと定期的な情報交換を行う中で、課題を共有して、課題解消するためにハード・ソフトに限らず、市の独自の補助制度を創設するなど対応してきたところがあります。今後ともそういった話し合いの中で課題が出てくれば、検討して、対応していくということになってまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

民営保育園の側からは、公立保育園を全部民営化して、対等な保育士獲得競争をさせてくれ、こういったような声さえ聞こえます。

しかし、私は、本来は保育士さんの労働環境や待遇の改善で、潜在保育士さんが現役保育士として働きたくなるような環境を整えるのが本当の在り方だろうと考えております。日本一の子供を育てる、こういう目標を持っている糸魚川市であります。民営化による経費削減を進めるだけではなく、責任を持って日本一の子供を育てる土台を、保育士さんが働きがいや誇りを持って子育ての応援できるような土台づくり、これをしっかりつくっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

平成27年度に、国の制度改正がございまして、保育の実施主体は市というふうに明確に示されております。公立、私立問わず、市が責任を持って保育に当たるということになっております。就学前につきましては、人間形成において土台をつくる本当に大切な時期だというふうに思っております。保育士が楽しくなければ、子供も楽しくありません。そういった楽しく保育できる環境をし

っかりつくっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

どうぞよろしく願いいたします。

それで、次の持続可能な糸魚川市についてです。

老年人口指数というのは、65歳以上の人口を65歳以下の人口で割ったものであります。農村地域では、糸魚川市を見てもわかるように、日本は世界一老年人口指数が高いと言われても驚きません。ところが、若者の流入が続いている東京都等の都会においても老年人口指数が世界一になっているわけです。

老年人口の増加は、2040年まで、あと20年先まで続くと言われております。日本は、世界で一番消滅可能性国となってるような感じがしておりますが、このあたりどう考えますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

老年人口指数で見えていきますと、私も今回、議員のこの質問で見ましてやっぱり非常に日本も高いし、世界の中でもそういった状況だというのは、よくわかったというふうに思っております。そういった中でも、今、国のほうでも人口減少に歯止めをかけるというところで、今、地方創生ということで国を挙げてやっておるところであります。そのためにやっぱり出生率、出生の数を上げていかなければ、日本の国という意味でいくと、ここが一番大事なところだと思いますので、取り上げて一生懸命やっているとします。

糸魚川市でも結婚の支援ですとか子育ての支援とか、そういったところを今に始まったのではなくて、過去からこの問題というのはずっと何十年もやってきて、今の結果になってるわけでありませうけれども、確かにこういった数字を見ていくと、これでやって、一番大事なものは、諦めてはいけないというのは、私思ってます、やっぱり継続してくというのが大事だと思います。粘り強く、小さくてもいい本当に身近なところ、できるところ、一人一人が輝いてる。そういったところで粘り強くやっていくというのが大事だと思いますので、そういった気持ちで今後も事業は継続していかなくちゃいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

さらに深刻なデータがあります。人口1,000人当たりの出生数、これは国際的に出生率として用いられているようですが、日本はデータのある200か国中、第200位、最下位で、1,000人当たり1年間に生まれる子供の数8.2人となっております。フランスやアメリカ、こ

これは1,000人当たり12.6人ですから、アメリカ、フランスの3分の2にもなっていないわけです。本当に深刻な状態だと思います。

この実態から、この原因を探らずに維持可能な日本、維持可能な糸魚川は、あり得ないと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

出生数ですけども、年間に生まれる子供の数100万人と言われてました。もうとうとうそれが90万になって、もしかしたら、今年90万を切る可能性もあると。非常に厳しい状況であるなどというふうに思います。

その中で、糸魚川市でもやっぱりかつては出生の数というのは600人、それが今200人、3分の1までになっている。本当に低下してきてると思いますので、やっぱり子供がいないというのは、地域経済も含めて活力なくなってくると思いますので、やっぱりここは1つのバロメーターというふうに思いますので、何とかいろんな施策を組み合わせる中で取り組んでいかなきゃならないというふうに、一番重要な課題であるというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私ちょっとデータ調べたんですけども、西暦2000年を100とする1人当たり給与の国際比較のデータを見てみました。韓国は、遅れた国からどんどん進みましたので、韓国は200%を超えております、この十七、八年間の間に。イギリスは180%、イタリアとフランスは1人当たり給与2000年と2017、8年ころで150%を超えております。アメリカ、ドイツは約150%ぐらい。日本だけが横ばいの100%となっております。このことは、未婚者が増え、出生率を下げた大きな原因の1つと思うんですが、そこら辺はどう思いますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員の質問の中にも、市長の答弁でも1回目でもございましたけども、賃金の問題も、賃金の関係も結婚に至らない理由の1つ、要因というふうには考えておりますが、私は決して、それだけではないというふうに思っております。

やっぱり内閣府の少子化社会対策に関する意識調査というのを2019年にやっております。そのデータの解析を見ていきますと、賃金が低いから、お金がないからというのも、それは要素としてはあるんですけども、そのほかにもいろいろな、人とのコミュニケーションがうまくとれないですとか、いろいろ出会い、この場がないとか、適当な相手に巡り会わないとか、やっぱりそういった要素もほかにもあるんだなというふうに思います。非常にやっぱり複雑に、多様な人それぞれの

価値観というふうには1回目で表現してはいますが、いろんな要素があるというふうには思っております。お金がないというものは否定はいたしませんけれども、それだけではないというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

確かに最近の30代、40代は子供の頃からファミコンや何かで育って、周りの友達とあんまり外で騒いだりしたことがない、そういう人が多いもんだから、女性と余り話するのが苦手だとか、そういうのも多いと思います。どっちにしましても、このままでは地方創生も持続可能な糸魚川も、まず人口減少問題にブレーキをかけることができなければ、これは進むばかりだと思います。

ちょっと調べてみたんですけども、糸魚川市の所得が低いのも1つの原因だということですけども、糸魚川市、大企業はありますけれども、大企業はほとんど本社が東京やなんかにあります。デンカも、セブンイレブンもローソンも、ヤマダ電機もみんな東京にあります。そういう大企業に糸魚川から、地方から富が吸い上げられているわけですけども、それがほとんど東京へ一極集中されております。そこで若い人たちが東京へ出ていってしまう。これはその形ではどうしようもないことなんかもかもしれません。

また、糸魚川のごみ焼却場の施設の建設にしましても、稼働時の維持管理もやはり東京に本社があるような工場へ糸魚川の税金、それから富を吸い上げられてしまう。そういう状況になっていると思います。その形が、東京と地方の格差を拡大させ、人口の移動に地方を疲弊させたのではないかと考えております。

地方の農水産業、これも6次産業化して、できるだけ付加価値をつけて、糸魚川市内で富を確保しよう、こういうことが取り組まれておりますが、市民所得はなかなか伸びてきません。こういったところで、糸魚川市が頑張るには、やはり糸魚川市に女性をしっかりと落ちついてもらえるような形をつくるしかないでないかなと思うんです。

先月、地方議員研究会のセミナーに参加して、フィンランドの教育福祉の勉強をしてまいりました。フィンランドでは、1917年ですから、もう200年も前に子供を虐待から守り、国の宝として育てるための制度をつくっております。100年もかけて、現在に至るネウボラという仕組みであります。日本では、現在、子供の虐待が問題になっておりますが、フィンランドでは、それは100年も前からその解消をしようということで始めたわけですが、子供を育てるに当たって、経済的な問題や精神的な悩みは、現在ほぼないそうであります。出産や子育てに手当が充実しており、育休も充実し、男性も育休しっかりとらなきゃいけない。それから、自治体は、保育所を24時間確保する義務があるという、そういうことだそうです。やはり自治体の義務として、保育はしっかりとやると。しかも24時間いろんな勤務形態があるもんですから、24時間やるのが義務づけられている。罰則まであるそうであります。妊娠・出産・子育てを通じて、かかりつけのネウボラおばさんが、家族全体を支援し、全ての問題のワンストップ拠点となっているそうであります。ネウボラおばさんは、保健師が担当し、その社会的地位はお医者さんと同等、同格と言われております。それほど人を育てることが重視されていると考えられます。福祉と教育の連携で切れ目なく子育て

を支援する役割を、ネウボラが保育園、児童相談所、家族関係を把握しながら果たしているそう  
あります。

糸魚川市では、教育委員会のこども課にこども支援室が設けられております。保健師は、福祉事  
務所、健康増進課、こども支援室に配属されておりますが、その連携につきましては、どのような  
状態でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

定期的に3つの課の保健師が連携会議を開催しております。その中で共通の課題について協議、  
情報共有をしております。職域として、課を越えて課題や情報を共有しているといった状況でござ  
います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

そこら辺が大変重要なところだと、このセミナーでは講師の方がおっしゃっておいりました。ひと  
つよろしくをお願いします。

糸魚川の持続可能性は、このキーワードはやはり女性だと思います。消滅可能性都市のキーワー  
ドも、やはり女性であります。他の国と違って、労働者の年収が上がらない日本では、外需やイン  
バウンドに期待しているわけですが、今回のコロナウイルスのような感染が広がりますと、大変な  
ダメージを受けます。糸魚川では、育休についても男性がとれるような職場は、ほとんどないと思  
われます。せめて女性の働きやすい職場を市自身がつくり、民間に広めていって、ジェンダー、平  
等の糸魚川を目指してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員のご質問をちょっと総括して、私のほうで全体をまとめてお話しさせていただきたいと思  
います。

議員からいろいろ地方創生、人口減少のご提言をいただいたところでありますが、東京一極集中  
で大企業に経済的に吸い上げられる。やっぱり地域内循環というのは、非常に大切だというのはわ  
かっておりますし、市内、地元の金融機関のほうでも、何とか地域内消費を起こしたいという取組  
もしっかりやっているとあります。行政の産業政策の中でも、何とかプレミアム商品券ですと  
か、そういったインセンティブをつけながら、何とか市内経済を循環させるという取組をしており  
ますので、やっぱり市内の働いてる方、市内の事業所というのは優先的な、そういった取組は総合  
的にはやっているというふうに思っております。

それと、子育てにつきましては、やっぱり学校教育だけではなくて、地域と家庭とやっぱりそう

いったところの一体となった子育て、それが愛着形成、郷土愛の醸成になる。ここで育った子供は、ここで大人たちに育てられたんだ。だから高等教育機関がなくても、いつかは帰ってこよう、そんな土壌が生まれるということは、非常に大事だと思います。やっぱり地域内経済の循環を回して、いかにこの地域の中でお金を回して、余ったものは外部で稼ぐ、子供たちはしっかり郷土愛を育む、いつかは帰ってきたい、ここはよかったと。そういうところを総合的に進めていかなければいけないと思います。これからもやっぱり粘り強く、諦めては駄目だというのは、私先ほど申し上げましたと思いますので、粘り強くやっていくというのが大事だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

どうぞよろしく願いいたします。

フィンランドでは、もう質問ではありませんが、フィンランドの勉強をしたのをちょっと紹介させていただきます。

フィンランドでは、教育は学校の教師の裁量で決められる部分が多く、勉強は学校で完結。宿題は、ほぼない。夏休みのような長期休暇に宿題なんてことは考えられないということでありました。学習塾はない。学校の先生は、午後4時になれば、ほとんど帰宅する。それでも学力は、世界のトップクラスであります。子供たちにとっても、学校教師にとっても、ストレスの少ない形ができていると感じました。

日本とフィンランドでは、社会の仕組みに大いに違いがあります。日本の中の糸魚川としては、できないことも多いかもしれません。ですが、フィンランドのネウボラ100年の歴史に学ぶことは、将来の持続可能な糸魚川に向けて、参考になることが多いと感じました。ぜひそこら辺を研究してみてくださいと思います。

これで、私の一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、佐藤議員の質問が終わりました。

15時50分まで休憩といたします。

〈午後3時37分 休憩〉

〈午後3時50分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕